



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1928, 9(1): 81-84

ISSUE DATE:

1928-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183373>

RIGHT:

刊の地誌目と其内容がわかる。こうした目録をみて、著者の苦心を感じ、併せて同好の志がその地方の小誌たりとも寄せられんことを望みたい。那誌の類でまだまだ足らぬものが多いが、著者はその後既に蒐集が出来たので續篇を出すといつてゐられる。予はこうした蒐集癖を學界のために喜ぶ一人である。(藤田)

○地理學雜誌 (奈良地理學會發行)

西田與四郎教授を會長とし、香川幹一教諭の熱心に幹旋されて居る奈良地理學會は昭和二年十二月地理學雜誌の第一號を發行した。創刊の辭にある様に本誌は我國の地理學界で手を附けて居ない方面に關する奈良地理學會會員の研究を公表し、江湖の批判に待たんが爲に刊行されるものである。

第一號の内容を舉げるとマルトンヌの地文學の第一編第一章を帷子學士の譯された「地理學の發達と其の定義」、グイダル・ド・ブラーシユの人文地理學原論所載の「都市」を紹介された西田教授の記事、富田學士の「地質時代の年數に就いて」、マルトンヌの「内陸盆地流域地方について」の三村信男氏の紹介、次は香川氏「龜岡盆地」、山崎宏氏「城郭の選地に關する考察」、山村嘉治氏「磯城郡多村の地名考」の三研究が載せられてゐる。猶紹介欄には一昨年から以後に出た外國の地理書類の紹介等があり、雜錄、教授資料、受験欄、質疑應答、會報の諸欄で賑はひ、雜誌の四分ノ一以上は後進誘掖に費されてゐるのは有難いことである。之を他の地理學雜誌と比較する

のは甚だ僥倖ではあるが、其の體裁は地理學評論に似、編輯は「地球」に近く、記事の或るものは小田内氏の人文地理に類したものと云へる。かういふ風であるからこの雜誌が研究發表機關だといはれるのに驚かずに我が地球讀者や地理學評論讀者が併讀されるのを我國地理學の爲に希望する。奈良地理學會へ入會せんとされる方は奈良縣師範學校地理教室香川幹一氏に申込まればよいさうである。猶地理學雜誌は年一回以上發行され實費(約五十錢)で頒布されるといふ。第一號は金五十錢で、頁數は百十頁、龜岡盆地東側斷層崖の圖版がある。(愛書生)

雜 報

○丹波國綾部及福知山四近の段丘

丹波由良川流

域には美しき數階の段丘發達す。京大地理學科生の調査した處によると綾部町本宮山(九十一米、元大本教社殿所在地)の頂上には礫層があり、一部分古生層角岩の山骨を露出する、この礫層は和知川(由良川の上流の河床の高かりし頃運搬せしものなるべく、全部古生層岩石の礫よりなる。綾部女學校小學校其他諸役所の存在する上町は約六十米の段丘にあり、舊藩時代の士族屋敷も多くはこの段丘上にありし由にて古風の家屋保存さる。以下二三段の段丘ありて冲積低地に下る。低地は三十九米許の高距を有し、綾部町の大部は更に一米餘

の段丘上にあり、福知山町は海拔僅に十五米許の低地にあり。四周の段丘は極めて新らしく而も標式的なり。町の南方、舊城址より東南方大野原、長田野、太鼓原等と稱する低臺地は何れも段丘にして粘土砂礫の互層よりなる。段丘の邊緣は若き谷によつて浸蝕されつゝあるが浸蝕は中央部まで進行せずして長田野の如きその中央に立てば廣渺たる沖積地の如き感あり。段丘は多く兵營又は軍隊作業場利用せらる。

町 名	段 丘 の 標 高 (米)				
綾部町附近	九〇	？	六〇	五〇	四〇
福知山町附近	？	七〇	？	？	四〇
				三〇	二五
				一五	

以上は概略にして精査せば更に數段を加ふべく、兩町共相似た間隔を以て生ぜることと面白く、更に段丘の下部には岩盤の露出する處が見えて土地の隆起、浸蝕の通行、地貌の回春が漸行しつゝある様子が窺はれる。これ等の調査と若狹灣岸の段丘其他の現象とを系統的に研究すると丹波高原一部に於ける最近世のローヒン現象を詳にし得る可能性があるらしい。(上治)

○若狹三方湖畔の天然瓦斯

三方湖は漸次に埋没其他の原因により深度を減じつゝあり、鱒川等の河口にはデルタによる新生地生ぜり。湖中にも瓦斯噴出箇所四ヶ所ありとのこととなるが、其の瓦斯の性質は詳にせざれど鱒川下流湖畔より三四町隔たる島濱部落にも瓦斯の噴出する處あり、小規

模のタンクに溜め家庭用燃料燈火用に供せり。自分等の調査せるは松村甚左衛門、増井勘右衛門、森川半兵衛、宇野久兵衛の四軒にして何れも十五間乃至十六間にして鐵分多き噴井水と共に噴出し居たりき。(上治)

○支那の製粉業

支那の小麥は土地廣大、氣候適當といふ天然の御蔭で十八省至る所之をつくるから、年額約四億石に達する、しかし支那人の主要食物が麥粉であつて、或は煎餅或は鍋餅或は饅頭にして喰うので、大抵の農家で其家の空地で、石の圓盤をつくりつけにして、これにロールを轉ばすやうにし、そのロールを馬や驢にひかして製粉してあるが、新式の製粉即機械工業として大規模にやり始めたのは一九〇五年日露戦争當時に始まる、ことに歐洲戦争中、斯品の供給不足が中國への需要を激増したので、この製粉業は俄に發展し今日では一萬兩以上の資本を持つ製粉場が大工場一二三、小工場を合せて二百に達し資本總計約二千二百萬圓に上る勢で、其小麥の名産地たる東三省に最盛であり、江蘇、湖北、山東、直隸等順に之につぐ、かやうに斯業が發達して其製品を年々海外に輸出するにも不拘、原料が不良で製品品質が悪いので、支那内地一般に歡迎されず年々多量の麥粉が海外から輸入される、一九二〇年に三、九六〇、〇〇〇擔を輸出の最高とし一九二四年に六、六五七、〇〇〇擔を輸入のレコードとする。これはこの年に中國が不作であつた結果であるが近年はどうやら輸出よりも輸入量が多いやうである。米國加

奈陀からの輸入が多く、日本からも相當輸入する。上海は現在三十から製粉廠があつて國內品を消費するが湖北湖南の小麥が優良である、我國人では三井麵粉廠が唯一の邦人經營で目下休業中であるが、一日二千五百袋(五十封度入)生産の能力がある。其他は福新麵粉廠が尤も大であるが八工場あつて社長を榮宗敬といふ。一晝夜に六萬三千五百袋もつくのである。製粉業の將來は見込が多い、將來は内地の磨坊製粉を壓倒するであらうと思はれる。

○米國冷藏船の東洋來

紐育に本店を有するカール汽船會社は桑港と東洋諸港との間に銀字號六隻の冷藏庫設備貨物船の運航を始め既に其最初の二隻は各千五百トンの加州產生果及野菜類を積んで日本、支那、爪哇、海峽植民地、印度カスカツタ方面まで輸送したるに成績極めて良好であつたので、今度第三航には冷藏庫設備の外に冷氣室を設けて生牛乳の運送を始めた、右牛乳は加州サクラメント平原のデグソンより取入れる筈であつて、之を印度のカスカツタに運んでも恰も桑港に於て買入るゝ同様の味を得らるゝといふが果してどうか。何にしても冷藏冷氣の設備が左程有効であるとすれば日本の生物商なども之を輕視するわけには行かない。

○石油の世界産額増加

過去四年間變動を見ざりし石油産額は一九二七年には前年に比し約十二%を増した、即十二億二千九百五十萬バレルになった。一九二六年に比し一二三、五六六、〇〇〇バレルの増である、右に對し米國の産は

八十五%である、かやうに米國産の激増は生産過剰になつてきた、これは加州とオクラハマ州、テキサス州に新油田が発見されたのと無制限探油の結果である、同時にヴェネズエラとコロンビアが産額を増加しメキシコは前年よりも三十%減少したので、世界で米國油田の位置が高まつて、ロシアは第二ヴェネズエラは恐らくメキシコ以上に第三位となつた。ロシアの産額は約七千萬バレルで一九二六年よりも七百萬バレル増加したので世界全額の五七%になつた。而して世界に於ける鐵油産業の安定を來すためには米國の生産制限が必要だと認められる。

○エチオピアと日本綿布

エチオピアは猶未開の域を脱せず、文化の程度低く、都會に在住する一部の者を除くの外單に綿布を身體に捲きつくるのみで、他品を知らず。依て輸入品は主として綿布であるが、然し鐵器硝子器等の雜貨も希、伊、獨の商人の宣傳で漸く需要が起るらしい、さてこの輸入品中綿布に關する限、本邦品は總輸入の九割と報ぜられる今綿布輸入の歴史を見るに、初めて之を輸入したのは英國であるが戰前より米國品の使用盛となり、戰爭の中頃より價格低廉の日本品一度紹介さるゝや全國的に之を使用するやうになつた、ジブチ港及アデンを經由するもの一九二五年には四百萬疋八千萬佛に上つた綿布の中日本品は九割であるがケンヤ及スーダン國境を經由するものを加へるならば、日本品のみで四百萬疋に上る。其輸入系統は印度人の手をへて、

孟買又はアデンよりするもの多く日本との直接取引は少い。因みにこの國の輸出品は珈琲、皮革、毛皮、蜜蠟、象牙等である。この中には歐洲市場をへて間接に日本に入るものがある。

○モンテヴィデオ市

ウルガイ國の商工業の中心で、

大海運業の發達に好適なる地位を有し、廣いリバープレート灣をひかへ同時に大西洋に臨む、其背後は牧畜農耕の大富源地であつたが十八世紀に至る迄この地理上の利益は實現しなかつた、所が一旦肉の冷却法によつて鮮肉を長距離に輸送することが發明されてから、こゝに大牧畜業が起ると同時にこの市も亦俄かに膨大してきたのである。この市は人口四十二萬二千、同國人口の四分一強を集中し南米の都會の中では最近代的の大都會である又其海濱の美ばしいことも有名で、ロスボストス、ラミレゾ、ガブロ等の風光を賞する外人の來遊年に千を以て數へる勢である。この港は二十七呎吃水の船舶が岸に横附になる、岸壁の延長一萬四千呎。こゝに製粉業と製革所が集中して、肉包裝業、鹽製工場、織工場等も集中する、セメント、家具、煙草、靴、石鹼、硝子、紙等の地方工業もある、その貿易額は年に一億五千萬ペソに達す。

○鐵道工事に於ける事故並其處置方法の實例

鐵道省建設局工事課が表題の如き出版物を發行する計畫を立て本年八月其の第一輯が現れた。夫れには二〇個の實例が現場の地圖と設計圖と共に説明されて居る。此れを讀む人は隧道工事の事故は根本に於いて地質學上の問題である事に識て

も氣付くであらう。地質學が漸やく今日此の方面に確固たる新境地を開拓せんとする時に當り、土木家が此の方面に關する知識を渴望して居る狀況が本書の刊行に依つて具體化された理である。地質學の智識あるものには一見明瞭なる事故の原因も土木家には不可抗力なる一語に盡されて仕舞ふ場合が甚だ多いにしても土木家が知り得るならば知りたいと思つて居る事、其れが斯の如き書を道して觀取される。(本間)

質疑應答

(問) 匍行 Creep について

北海道美幌小學校地理教室

(答) 山岳が風化によつて數多の岩屑土壤を生ずる時は此等の物は重力により次第に傾斜面を移動するもので、傾斜の少い所ではこの移動は極めて緩慢であるが、多少でも傾斜がある以上は必ず行はれる。デヴィス氏は之を匍行と名づけた其原因は、氣溫の差による體積の變化、或は溫度の増減であつて動物の移動、樹木の生長等も多少の働をする。寒冷な高山の頂上にてはこの作用は比較的大であるのが當然である。又この作用は時としては地形に種々な奇形を作るもので Stuknuboden は其一種である。北日本アルプスの乗鞍岳鶴ヶ池附近に於ける岩片の龜甲狀に列んで奇觀を呈するものは即ち之であつて、日本では始めて此の山で發見されたものであると云はれたが、英國のネーチュア百十五卷